

## 27 回目を迎える創造的ダンスの祭典「ヨコハマダンスコレクション」 コンペティションのファイナリスト決定！

横浜赤レンガ倉庫 1 号館を拠点に毎年開催されている「ヨコハマダンスコレクション」は、世界的な振付コンクールの日本プラットフォームとして 1996 年にはじまり今回で 27 回目を迎えます。約 500 組の振付家を世界に送り出したコンペティションのほか、近年の受賞者による公演、国際的に活躍する振付家による新作、海外のフェスティバルとの連携プログラムなど、多彩なプログラムで構成されます。

このコンペティションは、振付家やダンサー等が構成、演出、技術のみならず新たな表現の可能性に挑む場であり、創造性に基づく対話・交流のプラットフォームです。

今回は 4 月 26 日(月)から 6 月 28 日(月)まで公募を行い、15 の国・地域から計 116 組の応募がありました。映像・書類審査会を経て決定した 22 組(コンペティションⅠ:10 組、コンペティションⅡ:12 名)が、2021 年 12 月にファイナリストとして上演審査にのぞみます。

### コンペティションⅠ

上演審査：2021 年 12 月 11 日(土)、12 日(日) 横浜赤レンガ倉庫 1 号館 3F ホール

※横浜市文化施設における新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインに沿って対策に取り組みます。

#### ■ファイナリスト(10 組)

振付家名 (出身地) 『作品名』	プロフィール
いりてあんな かとりなおと <b>入手杏奈 / 香取直登</b> (静岡県 / 千葉県)  『WHAT'S YOUR NAME?』	 <p>(入手杏奈) 振付家・ダンサー。幼少よりクラシックバレエを学ぶ。桜美林大学文学部総合文化学科卒業。コンテンポラリーダンスを木佐貫邦子に師事。ソロ活動を主軸にダンス、演劇の舞台作品に多数出演。音楽PVへの振付出演、音楽家とのコラボレーション等の活動を行う。第 1 回ソロダンサーフェスティバル 2014 最優秀賞受賞。 (香取直登)振付家・ダンサー ダンスサミット in Japan 2013 グランプリ受賞。Dance Creation Award 2014 第一位。横浜ダンスコレクション EX2015 シビウ国際演劇祭賞、Touchpoint Art Foundation 賞受賞。俳優としても活動し、長塚圭史演出『作者を探す六人の登場人物』、小林顕作演出『パタリロ!』出演。理系ダンスカンパニー〈ケミカル 3〉主宰。ダンスカンパニー〈コンドルズ〉メンバー。</p>
おおもり ようこ <b>大森 瑠子(神奈川県)</b>  『Help』	 <p>1996 年生まれ。幼少の頃よりクラシックバレエを習い、現在は主にコンテンポラリーダンスやヒップホップを中心に活動中。横浜ダンスコレクション 2019 にて最優秀新人賞およびタッチポイントアートファウンデーション賞受賞。DANCE×Scrum!!!2020 にてグループ作品『ERROR』を発表。</p>
かめがしら かなえ <b>亀頭 可奈恵(東京都)</b>  『愛と誠。』	 <p>2015 年ダンス花、奨励賞。2016 年ダンスがみたい! 14、オーディエンス賞。2017 年 NEXTREAM21、最優秀賞。SICF18 PLAY、栗栖良依賞。2018 年単独公演『正義の自由論。』、2019 年単独公演『ほつれ。』、六本木アートナイト 2019 参加。2021 年単独公演『天国と地獄。』を開催。</p>

<p>くり あかね 栗 朱音(長野県)</p> <p>『garden』</p>	 <p>クラシックバレエを6歳から始める。日本女子体育大学舞踊学専攻でコンテンポラリーダンスや振付を学ぶ。鈴木ユキオ、山崎広太、笠井瑞丈、鈴木竜、伊東香織、福留麻里、柿崎麻莉子、エラ・ホチルドなどの振付家の下で踊る。 現在イスラエルにてダンスを学びながら、自身の創作活動をしている。</p>
<p>なかがわ あやね 中川 絢音(東京都)</p> <p>『my choice, my body,』</p>	 <p>幼少時よりクラシックバレエ、日本舞踊を学び、足袋とトシューズの狭間で思春期を過ごす。大学にて演劇を学びつつ、作品創作を開始。水中めがね∞主宰。 &lt;水中めがね∞&gt; 「人間社会におけるダンスの在処・在り方を模索し開拓すること」を目標に掲げ、2011年に活動開始。現在、振付家・ダンサー・制作スタッフ・ビジュアルデザイナーなどが所属。</p>
<p>なかにし 中西 ちさと(大阪府)</p> <p>『Umishitagi 3rd GIG』</p>	 <p>ウミ下着主宰。「国内ダンス留学@神戸」第一期に奨学生として参加。釜ヶ崎芸術大学ダンス部顧問。 キャラクターへの振付、子供向け劇場ツアーの演出、演劇への出演など活動は多岐に渡る。 &lt;Umishitagi&gt; ウミ下着のバンド編成版。「バンドやろうぜ！」と声をかけ集まったダンサーらで作品を立ち上げる。</p>
<p>なかやしき みなみ 中屋敷 南(神奈川県)</p> <p>『みえないけどいる -touch the ghost skin-』</p>	 <p>中学一年で、部活動のダンスと出会う。学校教育での経験が作品創作にも影響している。 人間の感情、感覚、内包された欲望の表出を、繊細で表情豊かな動き、振付で表現する。 横浜国立大学 Y-GSC 修了。専門学校身体表現(保健体育)講師。 横浜ダンスコレクション EX2015 最優秀新人賞受賞、上海現代舞踊展への招聘ほか。</p>
<p>Wang Yeu-Kwm(台湾)</p> <p>『From the Clouds to the Glow to the Moon』</p>	 <p>都会生活における肉体の疎外感を意識する。 最近の作品では、空間とオブジェクトを用いて動きを脱構築する一方、コンテンポラリーダンスを介して哲学的な問いを提案する。</p>
<p>Xiao Zhiren (中国)</p> <p>『Relationships』</p>	 <p>ダンサー・振付家。 &lt;Beijing LDTX Modern Dance Company(北京雷动天下現代舞団)&gt;と&lt;Guangdong Modern Dance Company(廣東現代舞團)&gt;に所属。&lt;Expressions Dance Company&gt;にゲストダンサーとして招待されている。</p>

<p>YANG Byung Hyun (韓国)</p> <p>『Beings』</p>		<p>2015年『Mandolong Sunshine』 Rising Choreographers, Ochanomizu Concert、2019年『Mo-ang Mo-ang』 Dream&amp;Vision Dance Festival、2021年『Wind Whisper』 Young Choreography に参加。</p>
---	---	---

※上記プロフィールについては本人の記述を尊重しています

□審査員

岡見さえ (舞踊評論家、共立女子大学文芸学部准教授)  
 北村明子 (振付家・ダンサー、信州大学人文学部教授)  
 近藤良平 (コンドルズ主宰・振付家・ダンサー)  
 多田淳之介 (東京デスロック主宰・演出家)  
 浜野文雄 (新書館「ダンスマガジン」編集委員)  
 サンソン・シルヴァン (在日フランス大使館文化担当官)  
 シモン・ホレンベルジュ (アンスティチュ・フランセ横浜 館長)  
 フランス国立ダンスセンター代表

## コンペティションⅡ 新人振付家部門 (対象:日本在住の25歳以下)

上演審査: 2021年12月4日(土)、5日(日) 横浜にぎわい座 のげシャレー

※横浜市文化施設における新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインに沿って対策に取り組みます。

### ■ファイナリスト (年齢=2021年6月 応募締切時点)

振付家名 (年齢/出身地『作品名』)	プロフィール
<p>あさかわ かなえ 浅川 奏瑛 (22/埼玉県)</p> <p>『0 ku』</p>	 <p>5歳より新体操を始める。尚美学園大学芸術情報学部舞台表現学科ダンスコースを卒業。 三輪亜希子、清水典人に師事。これまでに田村興一郎、下島礼紗等の作品に参加。</p>
<p>いとう しょう 伊藤 奨 (23/埼玉県)</p> <p>『路路、-ロジ-』</p>	 <p>俳優・コンテンポラリーダンサー。 幼少期より数多くのスポーツを経験し、高校では男子新体操部に所属。インターハイ出場。スポーツで培った肉体と精神が身体表現の基盤となり、現在は演劇やダンスなど、ジャンルの垣根を越えた活動を展開している。 横浜ダンスコレクション2021 コンペティションⅡファイナリスト。&lt;プリッシマ&gt;所属。</p>
<p>こばやし 小林 このみ (22/東京都)</p> <p>『Ms.フリーマーケット』</p>	 <p>武蔵野美術大学大学院彫刻学科在籍。 幼少期からダンスを習い、その身体性を生かした作品を発表している。 「私が作品をつくることと、ダンスの境界線」をテーマに日々作品制作を行なっている。</p>

<p>さいき ほのか 齋木 穂乃香 (23／新潟県)</p> <p>『林檎理論』</p>		<p>幼少期にモダンダンスを高橋三枝子に師事。 大学でコンテンポラリーダンスに出会う。 現在は埼玉を拠点とし、ダンスと日常、都心と地方のシームレスな関係性を模索。</p>
<p>とくだ みか 徳田 美佳 (23／茨城県)</p> <p>『作品』</p>		<p>茨城県出身。 横浜に憧れあり。小学3年生から高校まで新体操を習う。 大学でさまざまなダンスに触れ、どハマリ。大学卒業後は面白いことを探し続け、現在に至る。座・高円寺ダンスアワードⅡ 出演。</p>
<p>ないとう なおみ 内藤 治水 (24／埼玉県)</p> <p>『超過』</p>		<p>2019年お茶の水女子大学舞踊教育学コース卒業。 2015年から二瓶野枝主宰&lt;Dance Company Nect&gt;のダンサーとして9作品以上に出演。その他出演作品に、ピチエ・克蘭チエン『MI(X)G』、東京芸術劇場シアターオペラ 矢内原美邦演出『ラ・トラヴィアータ』、谷賢一演出 エラ・ホチルド振付『人類史』など。</p>
<p>なかじま ちほ 中嶋 千歩 (21／埼玉県)</p> <p>『惚れろ』</p>		<p>埼玉県立芸術総合高等学校舞台芸術科卒業。 多摩美術大学演劇舞踊デザイン学科演劇舞踊コース演劇ゼミ在籍中。6歳よりクラシックバレエを始める。高校在学中に演技、モダンバレエ、日本舞踊、ジャズダンスなどの舞台表現を幅広く学ぶ。大学では、勅使川原三郎のダンスメソッドを学ぶ。ダンス作品の制作は今回が初めて。</p>
<p>はしもと まな 橋本 真那 (20／神奈川県)</p> <p>『パトリオティズム』</p>		<p>2000年生まれ。国立台湾芸術大学舞踊学科に在学。 2019年、コンテンポラリーダンスを題材にした作品で第16回日台文化交流青少年スカラシップ大賞を受賞し、台湾政府を表彰訪問。同年、文教大学パブリシティ・オブ・ザ・イヤー2019学生部門を受賞。</p>
<p>ひらた ゆか 平田 祐香 (23／神奈川県)</p> <p>『moro』</p>		<p>1997年生まれ。神奈川の鶴見川沿いにある稽古場で4歳より現代舞踊を踊り始める。日本女子体育大学にて、岩淵多喜子のもとでコンテンポラリーダンスやその創作法を学ぶ。2019年ART.Mにて、自作品「独白」が松本千代栄賞を受賞。これまでに下島礼紗、田村興一郎などの作品に参加、現在、学校体育の講師をしながらダンサーとしてフリーで活動している。</p>

<p>やまぐち 山口 なぎさ (24／神奈川県)</p> <p>『mole』</p>	 <p>桜美林大学芸術文化学群演劇専修卒業。 大学にてコンテンポラリーダンスに出会い、在学中は木佐貫邦子に師事。モノや空間に動かされる身体反応をヒントに作品創作に挑む。演劇作品の舞台小道具製作も行う。</p>
<p>よこやま みや 横山 未弥 (20／広島県)</p> <p>『A body in my head』</p>	 <p>幼少よりクラシックバレエを始める。 高校生の時にコンテンポラリーダンスに興味を持つ。平原慎太郎等の作品に出演、2020年より創作活動を開始。 現在日本女子体育大学舞踊学専攻に在学中。</p>
<p>よしざわ ふう 吉沢 楓 (24／埼玉県)</p> <p>『人魚姫』</p>	 <p>幼少時ジャズダンスを習い始めたのをきっかけに踊り始め、ダンス作品を大学在学時より作り始める。 舞台と客席との関わりの中にある、人間同士、ダンスでしか通じ合えない神秘的、魔術的、本能的な力に興味がある。美的刺激の先に精神的な作用を感じ取れるような作品を作ることを目指している。 近年の主な振付作品として作品「歯みがき」など。</p>

※上記プロフィールについては本人の記述を尊重しています。

□審査員

ヴィヴィアン佐藤（美術家）

加藤弓奈（急な坂スタジオ ディレクター）

北尾亘（Baobab 主宰・振付家・ダンサー）

浜野文雄（新書館「ダンスマガジン」編集委員）